



つながろう

CO・OP アクション情報

2013年3月27日

第 27 号

## 忘れない、情報発信を止めない、つながりを切らない

### みやぎ生協「東日本大震災を忘れないつどい」開催



全国の生協からの支援に「支援を受ける人、支援をする人の立場を超えて、仲間として、隣人としてのつながりが深まったと思っています」と話す齋藤理事長。

2013年3月11日、みやぎ生協文化会館 withで「東日本大震災を忘れないつどい」が開かれました。震災で亡くなったみやぎ生協職員のご遺族をはじめ、みやぎ生協役職員、全国27生協57人の役職員を含む約250人が集まり、犠牲者を追悼するとともに、あらためて復興に立ち向かっていくことを誓い合いました。



2013年3月5日、みやぎ生協文化会館 withの1階には「東日本大震災学習・資料室」がオープン。震災当初から現在までの様子が写真、映像を中心に展示されている。誰もが自由に訪れることができる。

つどいは、震災で亡くなった16人のみやぎ生協職員をはじめ、全国の犠牲者約2万人を悼む黙とうから始まりました。冒頭あいさつで、みやぎ生協の齋藤昭子理事長は、被災者の悲しみに

寄り添うように静かに話し始めます。避難生活が長引く中で関連死、癒えることのない喪失の悲しみ。そうした中でこの2年間、復旧復興にあたり全国の生協や関連団体からの支援がいかに大きな力になったか……。そして、「忘れない、情報発信を止めない、つながりを切らない。私たちは活動と事業を通じて、くらしと地域産業を支え続けていきます」と力強く締めくくりました。

続いて、志津川かき養殖部会の遠藤勝彦部会長からは、「生協支援を得て、県内産かきのトップを切って再開できました」と感謝の意が表われ、また、石巻ボランティアセンター長の和崎きよ子

さんは、現在の被災地の現状を話しました。

被災地を支える側からコープネット事業連合の小林新治執行役員とコープこうべの竹中久人執行役員が、自身の経験と思いを込めてあいさつをし、日本生協連の芳賀唯史専務理事が今後の復興支援の内容について報告しました。

最後に、みやぎ生協の宮本弘専務理事が、全国からの励ましへの感謝と、「心のケア」「事業を通じた支援」「食を中心とした産業の復興」の3つを柱に取り組んでいくことを述べて閉会しました。

震災から3年目を迎える今、それぞれが被災地に思いをはせ、復興への決意を新たにしています。

# 復興担う子どもたちに本を贈ろう！

## 全国の生協から「学校図書館げんきプロジェクト」へ5,000万円<sup>※</sup>の寄付

全国の生協が取り組んできた「つながろうCO・OPアクションくらし応援募金」。募金合計金額は、2億8,551万9,452円となりました(下記、資料参照)。送金は、3～4月にかけて行なわれる予定です。取り組んだ募金活動のうち、「学校図書館げんきプロジェクト」について、紹介します。

### ●本に必要な本を 地元書店から

「学校図書館げんきプロジェクト」は活字文化推進会議と全国学校図書館協議会(略称・全国SLA)が中心となって行なっているもので、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の小・中学校と高校、特別支援学校に本を寄贈するというものです。

特長は「本を必要としている学校へ、必要とされている本を、地元の書店を通じてお渡しする」という点にあります。

プロジェクト発足に携わった読売新聞東京本社の下田 陽さんは、「被災地の学校に本を贈る活動が行なわれていましたが、なかには不用になった本や古い本が大量に贈られ、受け入れ側が困ってしまうという事態も見られました」と振り返ります。

また、近年の学校図書館は「学習の場」としての色彩を強く帯びており、発行年の古いものだと役に立たないこともあります。

### ●プロジェクトの推進力 となった生協からの募金

「学校図書館げんきプロジェクト」は、2011年12月に募金をスタート。スタート直後の寄付が集まらないなか、大きな後押しとなったのが日本生協連の支援だったそうです。

「11年の年末にお話をしました。すぐに賛同していただき、12年春



寄贈された本が並ぶ、福島県双葉郡大熊町立熊町小学校・大野小学校の図書館。大熊町は警戒避難区域に指定されており、両小学校は会津若松市の旧・河東第三小学校の校舎を合同で使用。大熊町は「調べ学習」に力を入れており、図書館整備は必須だった。

に1回目として1,000万円を寄付してくださったのです。この支援で運動に弾みがつきました」と下田さん。さらに12年11月には2,600万円を、13年3月には1,400万円を寄付しました。

プロジェクト全体の寄付金は2013年2月現在で約1億7,900万円だそうです。「日本生協連さんの寄付がいかにか大きいか、分かっていただけだと思います」(下田さん)

下田さんは、「最低でも3年間は続けるという目標を掲げています

が、できればもっと長く続けたいですね。これからの東北の復興を担う若い人たちを育てるという大きな意義があるからです。ぜひ1人でも多くの人たちに賛同していただきたいです」と呼び掛けています。

#### <募金受け入れ先>

(振込先)

■郵便振替

口座記号番号：00140-2-52334

加入者名：全国学校図書館協議会

(通信欄に「げんきプロジェクト」と明記)

■銀行振り込み

取扱銀行 みずほ銀行 江戸川橋支店

口座番号 普通：1137044

口座名義：全国学校図書館協議会  
げんきプロジェクト

#### 【資料】「つながろうCO・OPアクションくらし応援募金」(2013年3月19日現在)

募金先	取り組み生協数	日本生協連への募金入金額
① 福島の子ども保養プロジェクト (11年11月～13年2月28日)	52 生協	57,346,437 円
② 学校図書館げんきプロジェクト (12年4月～13年2月28日)	34 生協	41,029,128 円
③ あんしん福島募金 (12年5月～13年2月28日)	70 生協	102,124,826 円
指定なし	32 生協	85,019,061 円
合計		285,519,452 円



# 〈震災から3年目を迎えて〉 いわて

## 語らいが生まれる場で

### いわて生協「グループ活動費用補助」を利用した活動



「いきいき教室」の皆さん。左から奥 良子さん、長谷川節子さん、盛合栄子さん、長洞辰子さん。

岩手県宮古市の高台にある弘川仮設住宅。その一角にある談話室から、にぎやかな笑い声が聞こえてきました。毎日、午前9時過ぎから午後3時ごろまで活動している「いきいき教室」の皆さんです。2011年10月に活動をスタート。6人のメンバーでお手玉やひざ掛け、バッグ、鍋カバー、

帽子などの手芸品を丁寧に作っており、商品はいわて生協マリンコープDORA（宮古市）で販売しています。

お伺いした3月12日は縫い針などを刺しておく針山やティッシュボックスケースなどを製作していました。「みんな震災前は針仕事なんかしたことないのよ」と笑うのは長洞辰子さん。しかし、かきの養殖の仕事で培われた器用な指先からは、次々と作品が出来上がります。

実は、材料費やお菓子、お茶などの購入には、いわて生協の「グループ活動費用補助」を活用しています。これは被災地や内陸に避難した方が5人以上集まって行なうサークル活動やお茶会などを対象に、1回3,000

円（1カ月最大4回まで）を上限にいわて生協が補助しているものです。

「ここはいつもにぎやかで、最高の場所なんです」とメンバーの盛合栄子さん。このように日々、語らうことができる場所があることは、被災した方にとって大きな励みとなっています。



5個セットお手玉はマリンコープDORAでも販売中。

## 写真で見る「被災地のいま」

撮影者：いわて生協 小野寺真さん (①)  
いわて生協 杉村洋一さん (②、③)  
いわねスタジオ (④、⑤)  
2013年3月11日付近撮影



① 一角には、いまだがれきが積み重なっている（釜石市）。



② 「うごく七夕まつり」の山車。保管場所が確保できないため、ブルーシートをかけて風よけにしている（陸前高田市）。



④ 高台から望む（山田町）。



⑤ 津波到達地点から望む（宮古市鉾ヶ崎）。



③ 奇跡の一本松復元の様子（陸前高田市）。



# 〈震災から3年目を迎えて〉みやぎ

## みやぎ生協全店舗で、ふるまい企画実施

食のみやぎ復興ネットワーク※ 64 団体が参加



テントでは、あたたかい「白石温麺」を振る舞い、好評だった。

3月2日、9日、10日にかけ、食のみやぎ復興ネットワーク(以下、食ネット)主催の「みやぎを元気にするふるまい企画」が、みやぎ生協全店舗で行なわれました。企画には、64団体が参加しました。

3月9日、石巻渡波店では、日本製粉(株)・白石興産(株)・日本生

協連から「えび天白石温麺」、ハインツ日本(株)からトマトケチャップとフライドポテト、日本製紙クレシア(株)からティッシュ、マスクなどが配られました。

石巻渡波店は、東日本大震災の被害を受けて改装を行ない、昨年12月に最後の復旧店舗として再オープンをした店です。店舗周辺は津波の被害を大きく受けており、建物もまばらです。近隣の仮設住宅から来店した組合員からは、「再オープンはうれしい」という声が聞かれました。

ハインツ日本(株)東北オフィスの及川さんは、「食ネットの取り組みに感銘を受け、活動に参加しました。現在もまだ、寒い風が吹く中、テン

トで作業している生産者さんがたくさんいます。ハインツ日本では、そんな方々に仮設集会所、番屋、仮設わかめ加工場を寄贈するなど、復旧支援に力を入れてきました。まだまだやることはたくさんあります。復興への思いを心に秘めて、継続して活動していきます」と復興に向けた決意を話してくれました。



部活帰りの高校生も立ち寄りしてくれた。

※ 食を通じた復興に取り組むプロジェクト。  
3月20日現在の参加団体は、217団体。

## 写真で見る「被災地のいま」

撮影者：みやぎ生協広報担当

2013年3月11日～12日撮影

「被災地及び震災学習・資料室視察ツアー」にて



津波と火災で使えなくなった石巻市立門脇小学校。



震災語り部「三浦さき子」さん(前列左から2番目)。津波被害を受けた南三陸町戸倉小学校にて。



南三陸町、防災庁舎前。



視察に訪れた生協関係者ら。



コープ中国四国事業連合より、食のみやぎ復興ネットワークへ義捐金の贈呈。



# 〈震災から3年目を迎えて〉 福島

## 動き出した福島の漁業復興

コープふくしまコープマート方木田店で、復興の取り組み状況の説明



説明に、熱心に耳を傾ける組合員たち。

3月9日、福島県主催の「ふくしまの海産物～漁業復興に向けての取り組み」が、コープふくしまコープマート方木田店で開催され、約100人の組合員が来場しました。漁業復興の取り組みを、店頭で直接消費者に説明するのは、県としては初めての試みです。

福島県農林水産部参事兼農産物流通課長の吉田 肇さんは、「福島県では、放射線に関する世界一厳しい検査体制を敷き、その結果をホームページで公開しています。全国の皆さんに、福島の取り組みを知って、信頼していただきたい」とアピールしました。

相馬双葉漁業組合総務部長の遠藤和則さんは、「現在は、まだ試験操業で、安全な13魚種が流通しています。本来は約150魚種ですから、まだごく一部です」と現状を報告。

コープふくしま理事長の今野順夫さんは、「生協は、消費者の味方の組織。ひるがえれば、生産者もまた消費者であり、協力しながら歩むこ

とが大切」と話し、家庭の食事の放射性物質摂取量調査から、県内の食材を使った料理は健康に影響ないと発表しました。

この日、方木田店の水産売り場には、相馬市の原釜漁港に水揚げされたミズダコ、キチジ、ズワイガニなどが並び、組合員から歓迎されました。震災から2年、福島の水産業は、少しずつ復興に向かって動き出しています。



活気ある方木田店の水産売り場の様子。

## 写真で見る「被災地のいま」

撮影者：フリーライター 西村一郎  
(コープふくしま理事 渡邊洋子さん案内の下)  
2013年3月15日撮影



松原や堤防も津波でなくなり  
1本だけ残った松 (南相馬市の海岸)。



砂に埋もれた子どもの靴 (南相馬市の海岸)。



震災の傷跡が今も残る (南相馬市)。



地盤沈下し、水たまりが所々見られる (南相馬市)。



片付けが進まない倒壊した家屋 (南相馬市)。



建物の基礎だけになった場所には  
雑草が生えていた (南相馬市)。

## 全国生協からのメッセージ

# 「震災発災3年目を迎えて」

この2年間、被災地の復旧復興にあたって、全国の生協がさまざまな支援活動に取り組んできました。このたび、11人の生協役職員・組合員から、被災地へ向けたメッセージをいただきました。



神奈川県生協連 専務理事 丸山善弘

私たちは引き続き全国の生協とともに、東日本大震災を忘れない取り組みと、福島支援の活動を継続的に進めていくとともに、連合神奈川と労働福祉団体が構成する東日本大震災避難者連帯事業実行委員会、かながわ勤労者ボランティアネットワークをはじめ、神奈川災害ボランティアネットワーク、守りたい・子ども未来プロジェクト等の県内のさまざまな皆さまと更に連携をしながら心と力を合わせて活動を進めてまいります。

東海コープ事業連合 共同購入事業本部 農産商品部果物課 久野正人

昨年、東海コープでは福島の復興支援として「福島の桃」の取り扱いを行ないました。産地の状況、除染の努力を正しく伝えることにより多くの利用がありました。また桃を利用した組合員さんから産地への励ましの声をたくさんをいただき、産地へ伝えることが出来ました。

今年度も継続して取り組みを進めます。産物の利用を通し復興への力に少しでもなり、震災前の福島に戻る日まで、一緒に歩んで行きたいと思えます。



コープぎふ 常勤理事 大坪光樹

震災から3年目、本当に月日がたつのを早く感じます。一方、月日の経過とともに、被災地を思う心も急速に熱が失われつつあるような気がしてなりません。この間、何度か被災地に向かう機会を与えていただきましたが、その都度、被災地の皆さんの「忘れないで」という言葉が今も耳に残っています。モノやおカネ以上に被災地を思う心、いつまでも寄り添う心を大切に、これからも関わり続けていきたいと思っています。

コープいしかわ 組合員理事 奥迫敦子

コープいしかわを通して、被災地の方々の心に寄り添う支援のありかたを考えながら、北陸に住む私たちが支援活動をさせていただいています。被害の甚大さと復興の大変さを思うと、ともすれば無力感を覚えます。しかし、今こそ協同組合の理念とその力を信じて共に歩んでいきたいと、3年目を迎えた今、あらためて心に刻んでいます。去年の夏、被災地の男の子に教えてもらったすてきなお国言葉「がんばっぺし」。その響きをこれからも忘れません。



京都生協 店舗商品部 地産地消推進担当 福永晋介

あれから2年が過ぎたというのに、被災地は今まででいちばん苦しい時期を迎えているのかも知れません。「株高」だの「オリンピック」だの浮かれたニュースが流れる中、私は再建とか復興だとかが日に日に見えにくくなってきていると感じます。この2年の間に親しくなった南三陸のたくさんの人々の顔を思い浮かべるときにそれを申し訳なく思います。協同組合ができることをそろそろ本気で始めていく時が今きているような気がします。







### ならコープ ディアーズコープいこま店店長 土阪元宏

昨年3月に「遠野災害ボランティア」に参加し、4月より「東北お手伝いショップ」として被災されたお母さんたちの手作りの雑貨品や焼菓子などのバザーを店内で行なってきました。売上金はわずかですが、毎月行なうことにより、一人でも多くの来店される組合員の皆さんが、震災のことを忘れず、復興への思いを形にできる場となればと続けてきました。

活動の輪が広がり、少しでもお役立ちできることを願い、13年度も継続していきます。

### コープこうべ 理事 藤本正子

阪神・淡路大震災を経験した地域の生協として、皆さまのことを私たちは絶対に忘れません。長いお付き合いをしながら、哀しみも喜びも、ずっと一緒に分かち合っていきたいと思っております。私たちからも「こんなことができますけど、どうですか?」と呼び掛けてまいります。重たい荷物は手分けして持っていきましょう。ご近所付き合いのように、ぜひ「隣のこうべ」にお声掛けください。皆さまの笑顔が少しずつでも増えていきますように、私たちがお役に立てれば幸いです。



### 広島県生協連 福島 守

「本場広島のお好み焼きと“元気”をお届け続けます」

昨年「広島お好み焼き隊」を結成し、被災された3県の仮設住宅を訪問し、地元の生協の組合員さん、職員さんと一緒に焼いた、熱々のおいしい広島お好み焼きを食べていただきました。皆さんに笑顔になっていただけたこと、涙が出ました。いろんな支援の方法があるけど、今後もひと時でも喜んでいただきたい、笑顔になっていただきたい、元気になっていただきたいという思いを、お好み焼きに込めて、「顔の見える支援」を続けます。



### コープかがわ 参与 アイリーニ・トクコ・石井

2011年、被災地の方々はギリギリのところまで踏ん張ってこられました。2012年、被災地の方々はニョキニョキと荒れた大地で芽吹き始めています。全国の組合員の支援に応えようと……。

被災地の方々の笑顔は、私たちの喜び、慰め、励ましになっています。『お遍路コープ支援隊』のバトンは四国4県の絆をも繋いでくれ始めました！そして2013年、被災地では以前と違った力強さを感じます。“青い国”四国から、私たちの想いが皆さま方の心に寄り添い、笑顔につながると信じながら、甘いお菓子を今日も選んでいます。



### コープおおいた 理事 松尾孝子

この間、コープふくしまさんと協同し、事業や組合員活動を通して支援・交流活動を続けています。

1年目の夏は、放射線が心配で窓が開けられない小中学校へたくさんの扇風機をお送りしました。秋は、クリスマスリースを作るための松ぼっくりをお届けしたり（地面の放射線が心配）、春に向けては、貝殻をつくるためのハマグリのお殻をお送りする（海岸が整備されていない、放射線が心配）など、組合員同士の交流の中から生まれた活動です。これからも安心して暮らせる福島になるまで、私たちが目となり耳となり、広く伝えることと、私たちにできる応援・支援を続けます。そして寄り添う気持ちを大切にしていきます。



### コープかごしま 文化鑑賞会『まい・夢』運営委員 松下みゆき

テレビから流れる映像に釘付けの数日を送った衝撃の時からもう2年。募金に応じるだけの支援でいいのかという迷いの日々を過ごし、エイヤッと発起して9人で現地訪問したのが昨年の夏でした。いわて生協、宮古市の“かけあしの会”の方々と出逢え、被災地の海産物を中心とした商品販売ができるようになりました。

鑑賞会の会員の方へ商品を紹介し、購入してもらい、1人の小さな力を重ねて、大きな支援の一部になりたい。あの大きな被害に比べ、できることはほんとうに小さいけれど、これからもずっと続けていくつもりです。



# くらしを守る、コープふくしまの取り組み

## コープふくしま 野中専務講演録

2月23日、福島県二本松市で「放射線の健康影響に関する専門家意見交換会」(主催：環境省、福島県)が開催されました。2回目の開催となるこの日は、「“食べる”を考える」と題して講演と意見交換が行なわれました。

講演では、コープふくしまの野中俊吉専務理事が、「食事調査」を中心とした生協の取り組みを伝えました。その講演の内容を紹介します。



コープふくしま  
野中俊吉専務理事



講演会の会場風景。

### 講演「原発事故から生協組合員の暮らしをとりのどしたい」 食事調査、県産品応援、仮設住宅訪問などの取り組み ～被害の多様性をトータルに捉える～

福島県内 19 万人の組合員の不安に向き合って活動を進めてきました。放射能とはナノモノカを学んで理解した後、どれだけ被ばくしているかが心配になりました。多田順一郎先生<sup>※1</sup>の協力を得てガラスバッジ測定をし、その結果を持って学習しました。実際に「食事調査」を行ない、それをどう理解するかが大切だということさらに学習を進めてきました。

また去年の秋から、ひらた中央病院(平田村)の協力をいただいて、食事調査の参加者による WBC<sup>※2</sup>の検査にも取り組んできました。「食事の放射性物質測定」は 2011 年度は 100 家庭、2012 年度は 200 家庭が測定に参加しました。おやつも含め 2 日分の食事をゲルマニウム検出器で 14 時間測定しました。調査には食材を気にする家庭もそうでない家庭もバランスよく参加いただくことができました。結果、セシウムが少し出た家庭がありましたが、検出されるのは微量です。良かったのは、食事調査を通じて組合員が前向きになり、自分たちだけではなく、もっと困っている人に目を向

けようとする変化が見えてきたことです。

また食事調査と WBC とを組み合わせた調査では、定期的に測定していくと、仮に WBC で検出された方がいた場合、それが一次摂取なのか慢性摂取なのか見えてくるという点で安心です。

現在は、内部被ばくよりは外部被ばくを心配すべきと考えています。ガラスバッジ<sup>※3</sup>測定で一番山が大きいのが 0.1 ミリシーベルト / 月です。12 カ月月で 1.2 ミリシーベルトになるわけですが、食事調査で検出された人が 1 年間その食材を同じ量食べ続けても内部被ばく量は 0.01 ミリシーベルト以下です。だから食事にストレスを感じるのではなく、「きちんとした除染をしてほしい」という要求の方が安心を取り戻す上では大切だと思っています。

また、これだけ客観的なことが明らかになるなか、それでも不安に思っている人はいます。いつまでも怖がっている人が、神経質な人間だとか差別を受けることがないようにしていかなければなりません。「子ども・被災者支援法」など法律の趣旨

をきちんと理解し、怖がる権利は誰にでもあること、避難した人を支援する施策が必要であること、避難してはいないが私は怖いという人をきちんと尊重することが、これからの取り組みで大切だと思っています。

あらためて、原発事故の被害には多様性があるのだということを考えています。その後の関連死者数の多さ一つをとっても過酷ですし、自宅に帰る展望さえ持てない住民が多数存在しています。被害の多様性を食品の安全の問題に小さくしないでトータルに捉える必要があると思っています。

全国の生協からの支援を力に、これからも現場目線で色々なことに関わっていきます。

- ※1：コープふくしまとともに活動に取り組む「NPO 放射線安全フォーラム」理事。
- ※2：体内に摂取された放射性物質の量を体外から測定する装置。
- ※3：外部被ばくの線量を測定する個人用積算線量計。放射性セシウムから受けたガンマ線の量を測定する。



# つどい・つむぎ・つなげる・未来

## 「第2回つながろうCO・OPアクション交流会」開催



パネルディスカッションでは、さまざまな意見が出された。

3月14日、コラッセ福島（福島市）で「第2回つながろうCO・OPアクション交流会～つどい・つむぎ・つなげる・未来～」が開催され、全国42生協の役職員・組合員ら155人が参加しました。交流会では、東日本大震災発生から3年目を迎えた被災地の現状を学び、また、今後の

継続した支援活動を続けるにあたって必要なことを考え合いました。

コープふくしま野中俊吉専務理事の「原発事故から生協組合員の暮らしをとりもどしたい」と題した講演から始まったこの交流会は、その後、岩手県、宮城県、福島県ごとの分科会に分かれ、最後に分科会を受けて全体でパネルディスカッションが行なわれました。

パネルディスカッションでは、地域の復興の遅れから格差が大きくなっていることや、先の見通せない不安の中でストレスが増している状況などが出され、被災者生活再建支援法の補強などの社会的支援、サロン活動への支援、被災地生協だけで

なく支援生協からも発信を強化することなど、具体的な要望が出されました。また、地域社会での連携や役割発揮として、行政からの信頼が増したことや、地域社会の中に生協が位置付けられてきたこと、さまざまな団体と連携し町づくり審議会に参画できたことなどが確認されました。



分科会で、今後の支援のあり方について考え合う参加者。

# 「忘れない」という決意を胸に

## コープこうべ第3地区「震災2周年のつどい」開催



14時46分には、全員で黙とうを行なった。

3月11日、コープこうべ第3地区（神戸市東灘区～須磨区）では、「震災2周年のつどい」を開催しました。支援活動を長く続けていこうと活動する第3地区「震災支援を考える会」と、自然災害の犠牲を語り継ぐ「平和企画委員会」の合同開催です。この日は60人の参加があ

り、座席が足りなくなるほどでした。「つどい」は、第3地区組織統括の岩本衛さん司会で進行、地区理事の藤本正子さんのあいさつを皮切りに、コープ活動サポートセンター住吉チーフの林律子さんによる支援活動報告、続いて防災対策として、組合員による簡単な防災ずきん作りの発表がありました。

そして、東日本大震災発災時刻の14時46分には参加者全員で黙とうを捧げました。

参加者の中には1995年の阪神・淡路大震災で被害に遭った方も多く、「東北は津波と東京電力福島第一原発事故の被害が甚大なのでとて

も心配」「自分の経験上、『頑張れ』とは言えない。でも、頑張ってもらいたい」などの声が聞かれました。

第3地区本部長の野間誠さんは当日の日本経済新聞のコラムから、「人が一心に祈るとき、本当に必要なものは、わずかな場所と時間だけらしい。祈りの先には必ず相手がいる」と読み上げて、参加者の共感を呼んでいました。



これまでの支援活動の振り返りも行なわれた。

# 県内避難者と組合員、支え合う関係を築く

## コープあいち「地域をつなぐ交流会」開催



避難者一人ひとりが思いを語る。

2月24日、愛知県にある「ワークライフプラザれある」にて、「地域をつなぐ交流会」が開催され、愛知県へ避難している方と生協組合員の56人が出席しました（主催：コープあいち、協力：愛知県被災者支援センター）。

今回の交流会は、愛知県で暮らす人同士が知り合い、今後お互いに支え合える関係を築いていくこと、そして、被災された方々の思いや経験をもとに、地域の防災や安心して暮らせる地域づくりへとつなげていくことが大きな目的です。

現在、愛知県では500世帯を超える方が避難生活を余儀なくされています。今回の交流会では、5人の避難者の方々が、現状について話しました。「職がなかなか見つからない状況」、「家族がばらばらになっている現状」、「被災者と表立って言えなかった過去」、そして被災者を支援するための団体を立ち上げ、前

に進む努力をしている話など、それぞれの思いが語られます。参加者のなかには、被災者の話を聞くことで自ら加害者意識を持ってしまう人や、どう支えていけるのか悩む人もおり、課題は複雑ですが、一人ひとりが現状と向き合い、自分に何ができるかを考えるきっかけになりました。



近い距離で思いをぶつけ合う場となった。

# 赤武酒造(株)からのメッセージ Vol.4

## 代表 古館秀峰さんから(3月10日)



※関連記事：本誌17号、21号、24号にて古館代表のメッセージを紹介しています。

震災から2年を迎えます。あつという間でもあり、また長い時間でもありました。長きにわたり、継続支援してくださっております皆様方本当にありがとうございます。人は、関わり合い助けられながら生きているのだと実感する日々です。

昨年12月、隣接する盛岡市の土地に新工場建設のため地鎮祭が行われました。受け入れてくださった盛岡市の皆様や、様々な問題に共に向き合い協力してくださった皆様への感謝の想いで胸が熱くなりました。いつか必ず大槌町へ。改めて胸に誓い、新しい一步を踏み出します。復興へ向かい始めてから、不安や焦りでいっぱいでした。上手くいれないことばかりです。涙することもありました……。でも笑う事も出来ました。こんな私たちを応援し大切な事を教えてくれる人たちに感謝いたします。

これからもいろいろなことがあると思いますが、この感謝の気持ちを忘れず皆で頑張り続けていきます。



# 18 生協へ厚生労働省より感謝状

2013年3月11日、厚生労働省は、東日本大震災における被災者支援活動を行なった団体などに対して、厚生労働大臣から感謝状を贈呈することを決定しました。対象は、厚生労働省所管事業に関する貢献をした団体で、生協からは、日本生協連を含め全国18の生協が受賞しました。

【受賞生協】(3月11日時点での生協名で表記しています)

福島県生協連、さいたまコープ、医療生協さいたま、富山県生協連、福井県民生協、コープしが、コープこうべ、尼崎医療生協、ろっこう医療生協、福島大学生協、コープ東北サンネット事業連合、コープネット事業連合、パルシステム茨城、パルシステム連合会、医療福祉生協連、グリーンコープ連合、全労済、日本生協連



# 栄村の復興を願い、「福幸そば」販売 (長野県生協連)

長野県生協連は、長野県下水内郡栄村産のそば粉を使用した生麺「福幸そば(生)」を開発しました。

産地である栄村は、2011年3月12日に起きた長野県北部地震(通称名)の被害に見舞われた地域で、震度6強を記録しました。地震の影響により米の作付けや耕作ができなくなった水田の一部を、復旧するまでの間そば畑に転用しており、「福幸そば」は、そのそばを商品化したものです。

現在、1都13県の生協にて供給されています。



地震の被害を受けた田んぼ。ここにそばを植えた。  
(撮影:2011年6月1日、写真提供:(財)栄村振興公社)



## 「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に行き、見たもの、感じたものをお伝えしていきます。

「仮住の なれぬ水仕や 春浅き」(星野立子)

この歌は、しばらく仮住まいをすることになった人が、勝手が違う台所で苦労する風景をうたったものらしいのだが、今、この句で真っ先に思い浮かぶのは、仮設住宅のくらしぶりだ。狭いから食材の買い置きもしにくく、せつかくの料理の腕も振るえない。

何度か炊き出しやリフレッシュツアーに同行取材させていただいているが、色とりどりのおかずの入ったお弁当やバーベキューを前にした時の、仮設住宅にお住まいの皆さんの言葉が耳に残っている。

「仮設は台所が狭いから、作るのもたいへんでね」「一人分のおかずを作るのはかえってもったいなくて」「ホットプレートが使えないから、バーベキューや焼き肉はうれしい」

ただでさえ不自由なのに、おいしいものも食べられない生活はいつまで続くのか。でも、生協が支え続けているのを取材できるのはうれしい。「全員が仮設住宅を笑顔で出られるまで、生協は寄り添いますよ」

多くの生協関係者が、「支え続ける」という決意を共にしている。生協ならではの支援をずっと続けていってほしい。

さて、このコラムも今回で最終回となりました。拙文を最後までお読みいただき、ありがとうございました。



解体が決まった第18共徳丸(宮城県気仙沼市)。  
※写真と本文は関係ありません。

## 「震災後の復興支援活動」に関する書籍のご案内



西村一郎/著 B6版・301頁  
ISBN: 978-4-87332-314-5  
定価: 1,470円(本体+税)

各地から岩手に届けられた笑顔、被災者につなげた貴重な記録と未来への提言! 協同の力による岩手での復興の取り組みには、今後の災害にどう対応すればよいかのヒントが込められています。



永井雅子/著 B6版・270頁  
ISBN: 978-4-87332-319-0  
定価: 1,470円(本体+税)

2011年3月11日、午後2時46分……あなたは、その瞬間、どこにいましたか? 何をしていましたか? ちばコープの震災以後の復興支援の取り組みを記録しています。



西村一郎/著 B6版・290頁  
ISBN: 978-4-87332-321-3  
定価: 1,470円(本体+税)

同じ地域で暮らしている人、東北からの避難者、現存しているだけでなく、亡くなった方の願いや将来の社会で暮らす人々にも心を配る“協生社会”をめざして。埼玉県内の避難者支援の取り組みを記録しています。

## 支援募集情報

**岩手県生協連** 軽食付き自習スペース「山田ゾンタハウス『おらーほ』」への軽食支援募集。可能な金額でかまいませんので、ご支援よろしく願いたします。連絡先は、岩手県生協連専務理事 吉田 敏恵さん (019-684-2225) まで。

### いわて生協

新着

●「東日本大震災から2年～感謝のつどいと田老町漁協を励ます会のご案内」

岩手県の被災地の現状や、「真崎わかめ」をはじめとした岩手の頑張っている商品を知っていただきたい、この間の皆さまのご支援に感謝を申し上げたいとの思いから企画しました。組合員理事の皆さま、幹部職員の皆さまも、ぜひご参加ください。

1. 日程 4月27日(土) 16時 盛岡駅ホテルメトロポリタン集合 ※オプション企画として、盛岡店舗、セリオホールの見学会(27日 14:30集合)  
4月28日(日) 17時 盛岡駅解散

2. 2日間の企画とスケジュール

◆4月27日(土) 16:00・東日本大震災から2年～感謝のつどい { いわて生協の支援活動と震災からの教訓、被災地の現状と 17:30 これからの支援、復活に向けて頑張っているメーカーからなど 18:00～20:00 ・夕食懇親会	◆4月28日(日) 7:30～ ・ホテル出発 10:00～11:00 ・被災地視察(宮崎市田老地区を中心に語り部による案内) 11:30～13:00 ・田老町漁協の収穫を祝う会に参加 13:00～15:00 ・マリンコープDORA、復興商店見学、懇談会
--	--

3. 費用 盛岡までの交通費、宿泊費をご負担いただけたらと存じます。

4. 申し込み締め切り 4月15日(月) ※ただし、30人の定員に達し次第締め切り。

お問い合わせ、お申し込みは、いわて生協 役員室 金子または佐々木まで (TEL: 019-687-1321、FAX: 019-687-1117)。

### みやぎ生協

新着

●「東日本大震災学習・資料室」がオープンしました(1面参照)。ぜひ足をお運びください。月曜～土曜10:00～17:00(日・祝日休館)。  
[所在地]みやぎ生協文化会館 with 内(宮城県仙台市八乙女4-2-2)

●ふれあい喫茶で使用のお菓子(各地の名産品など)を募集しています。  
連絡先は、みやぎ生協ボランティアセンター(022-218-3880)まで。

新着

●被災された方の手作り品を掲載した「手作り商品カタログ」の第2弾が完成!!  
新たに、21団体の商品を紹介しています。ご希望の方は、上限100部程度までお送りすることが可能です。みやぎ生協ボランティアセンター(FAX: 022-218-3663)または、メール sn.mfukushinet@todock.jp)までご連絡ください。



●「全国の会員生協に向けて被災地復興支援ツアー(モデルコース)」のご提案。コープトラベルみやぎでは、沿岸部での観光、お買い物を含めた団体・グループ向けの被災地視察モデルコースをご用意いたします。お問い合わせ先:コープトラベルみやぎ担当:東さん、または高橋さん(電話番号:022-717-5081メール:sn.m30853yt@todock.jp)まで。

### 福島県生協連

●「福島の子どもの保養プロジェクト」の①スタッフ、②大型連休の保養受け入れ先募集。

①は、1カ月単位で毎週末参加可能な方を。②のご提案は、企画(日程、募集対象者、募集人数、スケジュール、参加者負担額等)を明確にした上で、ご連絡ください。連絡先は、福島県生協連 根本 喜代江さん(024-522-5334)まで。(保養の企画、運営、費用は、主催者にご負担いただきます。ご了承ください)。

●「土壌スクリーニング・プロジェクト」のボランティアを募集します。応募先は、「土壌スクリーニング・プロジェクト」ホームページ内にて。(http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/dojo/「どじょスク」で検索。事務局ブログも随時更新中!)

### お知らせ

●「支援募集情報」は今後、日本生協連情報プラザ(会員専用)内の「組活情報」(毎月発行)や「組活速報」(適宜発行)で発信していきます。

### 『編集後記』

東日本大震災から2年がたちました。「伝える」側として、「伝えるべきことが本当に伝わっているのか」と自問自答しながらの2年間でした。今も自問自答が続いています。全国で支援活動を行なっている方々もそうではないでしょうか。「自分には何ができるか」「この支援は本当に被災地域の方々に役立っているのか」。ひとつ確かなことは、東京電力福島第一原発事故を含め、未曾有の災害が東日本を襲ったこと、そして、その被害の下、前を向いて、あるいは、前を向けないなりに、一日一日を生きている人がいるということです。私たちは同じ「仲間」として、共に歩む幅を合わせながら、一緒に前に進んでいきたいと強く思います。

2011年8月から発行してきた「つながろうCO・OPアクション情報」は、次号28号より『CO・OPnavi』誌面(日本生協連発行の月刊誌)、また、日本生協連復興支援ポータルサイト上(http://shinsai.jccu.coop/)にて掲載していきます。引き続き、ご覧いただけましたら幸いです。

(2013年3月27日「つながろうCO・OPアクション情報」編集長)

本号外部取材スタッフ:荒川和巳、西村一郎、野口武、早坂恵美、前川太一郎

つながろう  
CO-OPアクション情報(次号からCO・OP『navi』誌へ継続掲載。毎月25日「日本生協連復興支援ポータルサイト」(http://shinsai.jccu.coop/)にて掲載いたします)。

発行 日本生活協同組合連合会(会員支援本部出版部)

〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11F Tel:03-5778-8183 / Fax:03-5778-8051 action@coop-book.jp